

被災者と防災当局からのヒアリングと現地調査をもとにした、台風襲来時の避難行動計画の立案：高知県室戸市の事例

坂本昂琉、丸田絢翔、森本早紀（高知県立室戸高等学校）

キーワード：防災、台風、被災者、防災当局、避難行動計画、避難経路

はじめに

台風時に的確に避難するための行動計画を立案する

背景

- ・室戸を含む高知県は台風常襲地帯
- ・室戸台風（1934年）や台風23号（2004年）で室戸で大きな被害
- ・現代の技術では台風接近が事前にわかるので、室戸市では台風に特化した避難計画を策定していない

台風時は、自分で判断して行動する必要がある

調査と結果

1. 当事者へのインタビュー

a) 室戸市防災対策課の担当者

- Q. 台風時の避難経路は決まっているか？
A. 近所の人人は公民館や知人宅に避難した。
- Q. 安全に避難することができたか？
A. 近所の高齢者を連れて、車で避難する余裕があつた。
- Q. 普段から土砂災害警戒区域マップで自宅の位置を確認している避難経路は決めていない。
A. 避難してから、どのような対策をとっているか？
Q. 台風接近時にはスマー太に警報と避難情報が表示され、また防災無線で避難を呼びかけるので、早めに避難してほしい。
- A. 風水害適用の保険に入り直した。身の回りに避難セット（靴、懐中電灯、非常物資）を置くようになつた。
地域の人々の意識も変化し、より熱心に避難訓練に参加したり、警報が出たら早めに避難する人が増えた。

b) 2004年台風23号の被災者

Q. 被災時にどこへ避難したか？

- A. 近所の人は公民館や知人宅に避難した。
- Q. 安全に避難することができたか？
A. 近所の高齢者を連れて、車で避難する余裕があつた。
- Q. 台風接近時にはスマー太に警報と避難情報が表示され、また防災無線で避難を呼びかけるので、早めに避難してほしい。
- A. 風水害適用の保険に入り直した。身の回りに避難セット（靴、懐中電灯、非常物資）を置くようになつた。
地域の人々の意識も変化し、より熱心に避難訓練に参加したり、警報が出たら早めに避難する人が増えた。

2. 自宅から最寄りの避難所までのルートマップの作成

インタビューの内容を念頭に、各自の自宅から土砂災害・風水害発生時の避難所までのルートマップを作成し、避難経路にある危険箇所をチェックした

a) 坂本自宅周辺



b) 丸田自宅周辺



c) 森本自宅周辺

